

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13020	2	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	食品衛生学 (Food Hygiene)				
担当教員名	大道 公秀				
授業の概要及び到達目標					
<p>○概要～食品衛生とは食中毒を主体とした食品に関わる危害防止を目的とし、その方策を探り、健全な食生活を営むための手段を構築する。今日の科学の急速な進歩や産業の発展は食生活の様相を大きく変え、それに伴って新たな食中毒・残留農薬問題等が提起されている。ここでは、食品の安全性および重要性を認識し、微生物制御、異物混入防止、食品添加物の安全性および使用基準などを中心に食品衛生・衛生管理の方法について学ぶ。</p> <p>○到達目標～食品の特性を理解し、食品の生育・生産から加工・調理、さらには飲食に至る過程での衛生上の留意点について学び、人体への安全面での影響や評価について理解し、適切な衛生上の管理手法を理解・習得することを到達目標とする。</p>					
準備学習等					
<p>第1回授業：教科書の序章「食品衛生とは」について熟読し、基本的な考え方を理解しておくこと。</p> <p>第2回授業：教科書の「食品衛生行政と法規」の章を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第3回授業：教科書の「食品と微生物」に関する項目を理解し、微生物学の教科書等も併せて熟読の上、食中毒に関連する微生物を中心にそれらの特性を理解しておくこと。</p> <p>第4回授業：教科書の「食品の変質」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第5回授業：教科書の「食品の変質の防止法」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第6回授業：教科書の「食中毒の定義・分類・発生状況・統計」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第7回授業：教科書の「細菌性食中毒（感染侵入型・生体内毒素型）」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第8回授業：教科書の「細菌性食中毒(食品内毒素型)・ウィルス性食中毒」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第9回授業：教科書の「自然毒・化学性・その他の食中毒」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第10回授業：教科書の「食品による感染症及び寄生虫症」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第11回授業：教科書の「食品中の汚染物質」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第12回授業：教科書の「食品添加物」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>第13回授業：教科書の「食品の器具と容器・包装」項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。</p>					

<p>第14回授業：教科書の「食品衛生管理」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。 第15回授業：教科書の「新しい食品の安全性問題」の項目を熟読し、疑問点があれば整理しておくこと。また教科書を最初から読み直しておくこと。</p> <p>各授業、予習・復習に4時間以上が必要な時間である。</p>	
成績評価の方法	授業態度・授業への参加度 20%、定期試験 80%
テキスト	「食べ物と健康 食品衛生学」、管家祐輔・白尾美佳 編著：(光生館) ISBN 978-4-332-00052-5
参考図書	「改訂 食品の安全性 第3版」(社)日本フードスペシャリスト協会 編 (建帛社) ISBN 978-4-7679-0482-5 「過去・現在・未来の視点で読み解く食品衛生入門」、大道公秀 (近代科学社 DIGITAL) ISBN 978-4-7649-6000-8 その他、適宜授業の中で紹介していく。
備考	○学生へのメッセージ；食品衛生学を学ぶのに必要な関連科目である公衆衛生学・食品学・調理学・食品加工学・生化学及び微生物学を復習すること。 ○オフィスアワー；授業日の5時間目
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品衛生学の概念 2. 食品衛生行政と法規 3. 食品と微生物 4. 食品の変質 5. 食品の変質の防止法 6. 食中毒の定義・分類・発生状況・統計 7. 細菌性食中毒（感染侵入型・生体内毒素型） 8. 細菌性食中毒（食品内毒素型）・ウイルス性食中毒 9. 自然毒・化学性・その他の食中毒 10. 食品による感染症及び寄生虫症 11. 食品中の汚染物質 12. 食品添加物 13. 食品の器具と容器・包装 14. 食品衛生管理 15. 新しい食品の安全性問題 <p>*授業の進捗度・理解度等により変更する場合もある。外部講師を招へいする場合もある。</p>	